

FREE

ご自由にお持ちください。

No.807

2020 December

12

岐阜県の森林・林業

も り

森林のたより



News of the forest



森林文化アカデミーでは、森と木に関わる
スペシャリストを育成しています。



森と木のエンジニア科1年:森林づくり実習(植林)



課外授業:獣肉学舎シカ解体



森と木のクリエイター科2年:木材マーケティング



森と木のクリエイター科1年:チェーンソー・刈払機の操作入門

●講義にて学んでいる森と木のエンジニア科学生、
森と木のクリエイター科学生



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込（問合せ）先／TEL
1月8日(金) 申込期限	令和2年度岐阜県 みどりの少年団 活動発表大会	<ul style="list-style-type: none"> ●今回は、みどりの少年団が集まって発表するのではなく活動調書と活動発表の様子を収録した動画を審査する方式で開催します。 ●参加を希望するみどりの少年団は、令和3年1月8日(金)までに右記へ提出してください。 	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 (岐阜市六条江東2丁目5番6号) 〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547 E-mail gifu-ryokusui@mtj.biglobe.ne.jp



表紙●講義にて学んでいる森と木のエンジニア科学生、森と木のクリエイター科学生

目次 Contents

イベントカレンダー（一般向け）……………2

100年先の森林づくりシリーズ17……………3

令和元年度森林環境譲与税を活用した市町村支援について……………3

山の歳時記(184) アカミノイヌツゲ……………4

森林を取得したときは市町村への届出が必要ですよ！……………5

岐阜県内へ移住し、林業に就業する方を応援します！……………5

東白川中学校緑化少年団がみどりの奨励賞を受賞しました……………6

令和3年用国土緑化・育樹運動標語へ優秀な作品を推薦しました……………6

シリーズ『森林・環境税』で緑豊かな清流の国ぎふづくり(8)……………7

山のおしやまむし(353)ー採った！オーブアナキゾウムシー……………8

木の香るまふの施設(93)ともいきの里・東弥……………9

森林と人を活かす知恵(95)……………9

関係人口で都市と農山村の関係性はどうか変わる？……………10

morinosプログラム紹介!!……………11

治山・林道研究課題……………12

林道法面における獣害対策について……………12

研究コーナー……………12

間伐が森林の水源かん養機能に及ぼす効果の検証(その2)……………13

普及コーナー 恵南森林組合の生産性向上の取組支援！……………14

スマート林業通信(6) 携帯圏外の安全装置体験会を開催……………15

国有林の現場から(50) 森林技術・支援センターの取組について……………16

林業者向けお知らせ……………17

市況……………18

◆100年の森林づくり計画策定プロジェクト

環境保全林の効果検証について【中間報告：揖斐川町試験地】

「100年の森林づくり計画」では、「環境保全林」に位置づけられた人工林は、間伐施業により公益的機能を重視した森林（針広混交林・天然林）へ誘導することとしています。針広混交林へ誘導するための最適な間伐方法を明らかにするため、県では5か所の人工林（本巣市、揖斐川町、八百津町、中津川市、高山市）で試験的に定性・列状・群状の間伐を行い、比較検証しています。今回は、間伐後3年が経過した揖斐川町試験地の更新状況を報告します。

列状間伐及び群状間伐を行った区域は、定性間伐と比べて間伐後に林冠が大きく開き、より多くの光が林内に差し込むようになり、林内に自然侵入した広葉樹（コナラやカエデ等）幼木の成長が良くなることが分かりました。しかし、列状間伐では、群状間伐と比べてシカによる食害等により枯死または消失する幼木が多くみられました。以上のことから、針広混交林への誘導には、定性間伐及び列状間伐より、群状間伐が適している可能性があります。

今回の結果だけでは断定できませんので、他の試験地も含めて引き続き調査を行い、最適な間伐方法を検証していきます。



図1 揖斐川町試験地の更新状況



図2 定性間伐(a)、列状間伐(b)及び群状間伐(c)の林冠の様子

●詳しい内容を知りたい方は TEL058-272-1111内線(3027) 100年の森づくり推進室 森林企画係まで



令和元年度森林環境譲与税を活用した 市町村支援について



森林環境譲与税は、令和元年度に全国の地方公共団体に対し200億円譲与され、うち岐阜県には約1億3,700万円が配分されました。本県では、この譲与税を活用して、税の趣旨に基づき市町村の林務行政の支援を実施しましたので、その内容を一部紹介します。

◆新たな森林管理システム総合研修事業

全体事業費：8,319千円（内、市町村林務担当者研修費：1,237千円）

事業概要：森林管理における市町村の取り組みが期待されていますが、市町村のマンパワー不足や林業等に関する専門的な知識が乏しいのが現状です。そこで、森林経営管理制度*を運用するための知識を習得し、未整備森林の解消に役立てていただくため、市町村の実務担当者を対象とした研修会を開催しました。研修は、森林経営管理制度の概要など基礎的な内容から、講師に弁護士を招き法的な解釈の理解を深める専門的な内容まで、全5回開催し、延べ204人の市町村職員等に受講していただきました。

事業効果：森林経営管理制度に基づき6市町が森林所有者へ意向調査(285人・459.7ha)を実施し、その内、1市(24.6ha)でこれまで適切に管理されていなかった森林の整備が実施されました。

(※)森林経営管理制度：適切に管理されていない森林の所有者に対して市町村が森林経営の意向を調査し、自ら経営管理できない場合は市町村へ森林の管理を委託していただく制度です。



研修状況



意見交換

岐阜県における森林環境譲与税の用途をインターネットで公表していますので、その他の事業内容や事業効果については、県ホームページをご覧ください。

(県HP「森林環境税・森林環境譲与税」：<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/104589.html>)

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3023) 林政課森林企画係まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

岐阜県側の白山信仰の入り口、
白鳥町石徹白。

その石徹白にある白山中居神社
に行くと、手水舎にアカミノイヌ
ツゲが神籬（ひもろぎ）として飾
られているではありませんか。

神籬とは神社本殿や神棚以外の
場所に、神を迎えるための臨時の
依り代とするもので、一般的には
常緑樹のサカキを祀ります。

「ひもろぎ」の「ひ」は神霊を指
し、「もろ」が天下ること「あもる」

の意味で、「き」は木を意味すると
され、つまり神霊が天下る木、神
の依り代となる木なのです。

神籬や御玉串料に使われる樹木
はさまざまで、岐阜県中南部では
サカキ、飛騨地方ではソヨゴ、郡
上市白鳥町の石徹白中居神社や高
山市の日和田神社、飛騨市河合町
の匠屋敷ではアカミノイヌツゲが
使われています。

アカミノイヌツゲはクロソヨゴ
（*Ilex sugeroki*）の変種とされ、北
海道〜本州中部以北、一部岡山県
に隔離分布する常緑低木で、山地
の尾根や岩場、草地などに見られ
ます。

葉は長さ2〜3cmの革質で上方
に低い鋸歯があり、よく分岐した
枝を密につけて樹高約2mになり
ます。雌雄異株で初夏に咲く花の
花柄は1〜1.5cm、秋に赤く熟
す果実は径約7mmになります。

岐阜県内の分布を見ると、西濃
や東濃の南部ではクロソヨゴが、
それ以北にはアカミノイヌツゲが

分布する傾向があり、夜叉ヶ池で
は標高約1000m、冠山では標
高約900mまではクロソヨゴ、
それより高い地域でアカミノイヌ
ツゲが生育しています。

両種の見分けは分布と大きさで
す。クロソヨゴは山梨県以西の太
平洋側、中国地方、四国などに分
布し、樹高も5mほどと大型で、
葉の長さ3〜4cm、花柄の長さ約
2〜4cmと、アカミノイヌツゲよ
り大きいのが特徴です。

学名のうち属名 *Ilex* は、セイヨ
ウヒイラギ（holly）の古代ラテン
名です。種小名 *sugeroki* は、ロ
シアの植物学者マキシモウィッチ
（Carl J. Maximowicz）が、名

古屋の本草学者水谷豊文（通
称、水谷助六、1795〜
1833年）に因んで、「助六」
としたものが訛つたものです。

また、アカミノイヌツゲの
変種名（var. *brevipedunculata*）
は「短い花柄のある」という
意味で、これはクロソヨゴに



▲白山中居神社の神籬

比較してアカミノイヌツゲの花柄
が短いことに由来します。

和名のクロソヨゴは「幹が黒く、
ソヨゴに似た」意味で、アカミノ
イヌツゲは「果実が赤く、イヌツ
ゲに似た」という意味です。ちな
みに名前にあるイヌツゲの「イヌ」
は、「ツゲに似ているが違う」とい
う意味です。

一年の穢れを祓い新年を迎える
「年越しの大祓え」。

もしも神社詣でに行くことが
あれば、祖先たちが常磐木に託し
た神籬の存在に気付いて欲しい
のです。

森林を取得したときは 市町村への届出が必要です!



新たに森林を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。注) 立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

1 なぜ届出が必要?

「伐採及び伐採後の造林の計画の届出」をしないで伐採が行われた場合、造林命令や保安林における監督処分など、行政が森林法に基づき諸制度を円滑に実施する上で、森林所有者を把握することが重要であるからです。

2 どのような場合に届出が必要?

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

3 どんな森林が届出の対象?

対象となる森林は、岐阜県が策定する地域森林計画の対象となっている民有林です。

●地域森林計画の対象となる民有林とは:岐阜県では、平野部の市町村を除いた34市町村の民有林を対象に地域森林計画を策定し、「対象とする森林の区域」を定めています。その区域については、県のホームページ(「ぎふふおれナビ」で検索)、県庁林政課、各農林事務所林業課、市町村林務担当課で確認することができます。

4 いつ、どこへ届出を出すの?

所有者となった日から90日以内に、取得した森林のある市町村長に届出書を提出します。

5 どのような届出書を提出するの?

「森林の土地の所有者届出書」に次の書類を添付して提出してください。

添付書類 ①取得した森林の位置を示す図面(任意の図面に大まかな位置を記入)

②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類

●届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ(「森林の土地の所有者届出制度」で検索)をご覧ください。

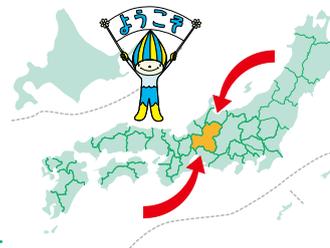
6 もし、届出を出さない?

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。



【林政課 100年の森づくり推進室 森林計画係】 ●お問い合わせは、市町村林務担当課または県庁林政課森林計画係 TEL 058-272-8471 まで

岐阜県内へ移住し、 林業に就業する方を応援します!



本県の健全で豊かな森林を将来にわたり守り、活かし、次世代に引き継ぐためには、持続可能な森林経営が必要であり、これを担う森林技術者の確保が重要な課題となっています。

そこで、東京圏以外から県内に移住して林業に就業する方に対して、市町村と共同で移住支援金を給付する制度を創設しました。支援金の内容は、**世帯者100万円、単身者60万円**を給付するものです。

この制度を活用いただくことで、移住者された方の引っ越し等の費用や林業就業に係る負担を軽くするとともに、働く世代の移住促進と森林技術者の確保が期待されます。

なお、この移住支援金を受けていただくための要件がありますので、あらかじめ県のホームページ[岐阜県に林業就業で移住される方へ]をご確認ください。

また、移住支援金の手続きは、移住先の市町村に申請していただくことになります。移住先の市町村においても予算が確保されている必要がありますので、興味ご関心のある方は、県担当窓口までご相談ください。



県HPのURL:<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/62576.html>

岐阜 林業移住

検索

林業就業移住支援金の交付までの流れ

申請のタイミングにご注意ください!



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8491 森林整備課担い手企画係まで

東白川中学校緑化少年団

がみどりの奨励賞を受賞しました

東白川中学校緑化少年団は、令和2年1月に開催した岐阜県みどりの少年団活動発表大会において、最優秀に選ばれ、優秀な緑の少年団として公益社団法人国土緑化推進機構へ推薦したところ、みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）に選ばれました。

本来ですと、北海道で開催される「全国育樹祭」や「全国緑の少年団活動発表大会」に出場して、活動発表を行う予定でしたが、残念ながら1年延期になってしまいましたので、この度、表彰状と副賞を団員の皆さんにお届けしました。

東白川中学校緑化少年団は、昭和44年の結成以来、50年以上の歴史を刻み、林業や木材産業が盛んな地域を背景に、中学1年生16名が植栽から伐って使うことまでを体験するとともに、地域の美しい森林を次の世代につなげる活動を行っています。

これからもこの伝統を守りつつ、緑豊かなふるさとを愛し、心豊かな人に育ってほしいと思います。



【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司】



令和3年用国土緑化・育樹運動標語へ 優秀な作品を推薦しました



国土緑化運動・育樹運動の一環として、緑化に関するポスター等使用する標語を募集したところ、県下の学校から113点の応募があり、審査した結果、次の10点を優秀な標語として公益社団法人国土緑化推進機構へ推薦しました。

標語	氏名	学校	学年
ふるさとの かがやく緑 いつまでも	としか 登坂 はやて 颯	羽島市立福寿小学校	3年
木を植えて 緑の大地 広げよう	あかざ 赤座 ももか 百珂	羽島市立福寿小学校	5年
そだてよう 緑の大地 未来のために	いかい 猪飼 たつや 達也	海津市立石津小学校	3年
いつまでも ゆたかな緑で かがやく未来	すぎした 杉下 まさき 将基	海津市立石津小学校	3年
広げよう 緑の世界 ぼくらの未来	たかぎ 高木 げんと 源斗	海津市立石津小学校	5年
育てよう 森の緑を 未来へと	あさい 浅井 そら 蒼来	海津市立石津小学校	6年
未来へと たくそうみどり いつまでも	きとう 佐藤 けん 権	海津市立石津小学校	6年
守りたい 緑あふれる この町を	かゆがわ 粥川 まひる	郡上市立郡上東中学校	1年
とどけよう 緑の大地 未来へと	たかはし 高橋 ひろき 寛生	御嵩町立御嵩小学校	6年
育てよう 一つの芽から 緑へと	きとう 佐藤 りょうま 良真	御嵩町立御嵩小学校	6年

多くの応募ありがとうございました。

これからも緑豊かな未来に向けて、皆様のご協力をお願いします。

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司】

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

8

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

水田魚道設置推進事業

水田魚道の設置を促進することで、生態系保全とともに地域の環境意識の高揚、環境保全型農業の発展につなげます。

【令和元年度設置状況】

- 養老町有尾地内及び海津市南濃町地内の計2ヶ所で設置に向けた現地研修会を開催し、水田魚道を設置しました。
- 地域住民・関係者ら計30人が参加し、講師指導の下、住民自らが組み立て・設置を行いました。



講義状況



設置状況



設置魚道

【水田魚道設置効果検証】

- 水田魚道の設置に有効な場所や条件等を検証するため、県内150地点以上で、水路に生息する魚類等の調査を実施しています。
- 水田魚道3ヶ所で、無人観測機を用いた遡上及び降下の長期連続観測を行ったところ、計14,690尾の魚類の遡上降下を確認しました。
- 設置地域での繁殖状況を調査したところ、タモロコ9,369尾、メダカ6,072尾、フナ2,497尾の繁殖や、ナマズの産卵等が確認され、多様な魚種の生息区間として機能していました。



魚類生息状況調査状況



水田内で増殖した魚



自動計数装置により撮影された魚

● 詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8460 内線(3158) 農村振興課農村支援係まで



山のおじゃまむし



一採った!、オリーブアナアキゾウムシ【第353回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

「採った!」と心の中で叫ぶこの言葉。昆虫マニアなら誰しも経験しているであろう。稀種、珍品と呼ばれる珍しい種を採集した時だ。この時の喜びは何とも言えない。虫マニアだけが味わえる喜びであろう。私自身、何度も口にしているが、特に珍しい種については、いつ、どこで、どのような方法で採集したかをはっきり覚えている。それなのに今の私、昨日のことすら忘れてしまうのだから笑えてくる。笑い話をもう一つ。30数年前、友人の故N氏と某所へ採集に出かけた。その時「ばんざい、ばんざい」と大きな声が聞こえてきた。N氏であった。狙っていた蝶が採れたと喜んでいたのである。おそらく「採った!」と心の中で口にしたもの、あまりにも嬉しかったので、思わず大声で叫んだのであろう。今でも笑えてくる。私が「採った!」と喜んだ虫で多いのがゾウムシの仲間だ。象のような長い鼻（口吻）に魅せられ40年以上採り続けている。この間、何種もの珍しいゾウムシを採集している。その都度「採った!」と喜ぶ。時には1日に何回も口にしたこともある。そのうちに自分は「ゾウムシ採りの達人」ではないかと思うようになった。ところが、その達人もここ数年は「採った!」とは無縁。この言葉を忘れてしまいそうだ。それは岐阜県に生息しているゾウムシのほとんどを採ってしまったからである。それと目が悪くなったこと。5mmに満たない小さなものは顕微鏡が必要だ。しかし、顕微鏡に大写しにされた虫を見ても、なぜか「採った!」と感激するほどの喜びはない。やはり野外で採った時に口にできる言葉だと思う。となると後期高齢者の私は、再び「採った!」と口にできる喜びはないだろう。体力、視力それに気力が低下していくので、前のように野山を駆け回ることができなくなるからだ。こんなことを思うと悲しくなってくる。しかし、そうではなかった。珍しい虫が現れたのである。

× × × ×

その虫の名はオリーブアナアキゾウムシ。大きさが1.5cm前後で、体は分厚く頑強。顔から突き出ている太くて長い口（口吻）は象の鼻のようで、まさにゾウムシである。本種はイボタノキやネズミモチで見られるが、オリーブ栽培地では幹を加害する大害虫として知られている。しかし、オリーブのない岐阜県では、今までに8頭しか採れていない希少種である。このうち4頭は、私が採集している。これは自慢できるが、残念ながら、どのようにして採ったかは覚えていない。その後もその場所へ何度も出かけているが、20年経っても採ることができない。駄目だ。この虫は運次第だ。5頭目は運を待つことにした。しかし、なかなか訪れなかった。

× × × ×

今年の8月中旬、その運がやってきた。発端は虫友であり飲み仲間のF氏からのメール。岐阜市にオリーブアナアキゾウムシがいるとの情報であった。そこは市内にある畑に植えられたオリーブの木。所有者のS氏に連絡し、案内してもらった。オリーブは3本あり、幹には1cm弱の穴や齧られ跡がたくさんあった。すぐに虫を探し始めた。しかし、いない。するとS氏は「これは今朝採ったものです」とビニール袋を渡された。中には羽化したばかりの奇麗なオリーブアナアキゾウムシが動き回っていた。15匹いた。本来なら大喜びするところだが、小喜び?であった。これだけいると希少種とは思えなかったからである。S氏によれば6月から発生し、8月中旬が特に多く、その後は少なくなったという。オリーブは10年前に植えたもので、現在は高さ8m、幹の太さ10cm位。この小さな木からたくさんの成虫が発生している。信じられなかった。帰宅後、5匹は標本にし、残りは飼うことにした。しかし、私は満足できなかった。自分で採ることが出来なかったからである。そこで9月中旬、再び出かけた。しかし、いない。S氏はここ3日間見ていないので無理ではとのことであった。それでも私はこの虫をしつこく探した。1時間後、胸が熱くなった。幹にある大きな穴（洞）から競うようにして3匹出てきたのである。すぐに捕まえた。「採った!」と心の中で叫んだ。嬉しかった。胸が熱くなった。やはり「採った!」は自分が採集した時に出てくる言葉だと思った。

× × × ×

この日もS氏から13匹頂いた。この他にも何匹も駆除しているので60～70匹はいたのではないかと言われた。こんなにたくさんいた。もう珍品ではない。普通種ではないかと思ったら、熱が冷めてきた。それより、なぜここにいたのか。これが不思議だった。このゾウムシは飛騨や郡上地域などの山林で採れている。しかし、そんな遠方から直接来たとは思えない。なぜ、ここにいるのか。この謎解きに興味がわいてきた。そこで手始めに、オリーブと同じ仲間のキンモクセイを与えた。すると、これをかじり始めたのである。驚いた。ひょっとしたらキンモクセイが発生源ではないか。そうなると園芸害虫として問題になる。こんなおかしなことを思いながら、毎日成虫を眺めている。



▲ 幹を齧っている成虫



とうや
ともいきの里・東弥
(障がい福祉サービス事業所)

郡上市大和町大間見233-1

施設全景
(写真の左奥が本館。右手が交流棟)

施設概要

事業年度	令和元年度
事業主体	社会福祉法人 ぶなの木福祉会
構造 延床面積	木造平屋建て 764㎡
施設用途	社会福祉施設
木材使用量 使用樹種	216.87㎡ (県産材使用量216.77) ヒノキ、スギ、マツ等
全体事業費	116,102千円(建築本体工事)
助成額	12,988千円(木の香る快適な公共施設等整備事業)
設計者	(有)荒井建築設計事務所
施工業者	(株)ヤマシタ工務店
工期	令和元年8月～令和2年3月

施設の経緯

「ともいきの里・東弥」は、前身の「ぶなの木学園共働社」(就労継続支援B型事業所で、平成16年に「ぶなの木学園」の分場として開設)が、施設の老朽化に加え、土砂災害警戒区域イエローゾーンに位置していたため、移転して生まれ変わった多機能型事業所です。

施設は、本館と交流棟の2棟構成になっており、本館では農福連携による加工品を製造し、交流棟では製造された加工品などの販売の他、地域の方などのコンサートや会議もできるようになっています。

郡上市大和町の山あいにも裏山の杉林に馴染むように建てられ、屋内も木材の温かな雰囲気を感じられる空間が広がっています。



本館プレイルーム

施設利用者の創作活動やレクリエーションなどに利用されます。



本館廊下の吹抜け

ここに注目!!

床、腰壁等に木の温かさを取り入れ、本館の吹抜けはクロウバーの形が印象的な作りとなっています。

交流棟は、越屋根までの吹抜けを木格子で構成し、まんべんなく光をとり入れ、明るい室内となっています。

利用者の様子

交流棟の「であいの広場とうや」では、障がいのある方や高齢の方、お子様連れのお客様が、木の持つやわらかな色味や温かな感触を楽しみながら、ゆったり過ごしています。

■問い合わせ先

(社福) ぶなの木福祉会 ともいきの里・東弥
TEL 0575-88-0088

本館との渡り廊下

交流棟
兼 避難スペース棟

災害発生時には地域の避難場所としても活用されます。



関係人口で都市と農山村の

関係性は どう変わる？

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 嵯峨 創平

関係人口とは

2008年を境に日本の総人口が減少局面に入り、2010年代に気象災害等が引き続き起こる中で、「東北食べる通信」の高橋博之氏、「ソトコト」編集長の指出「正氏ら民間の有識者から「関係人口」という言葉が提唱されました。関係人口とは「自分でお気に入りの地域に週末ごとに通ったり、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援するような人たち」と解釈され、「観光人口以上、定住人口以下」とも位置づけられています。

こうした関係人口拡大の背景には、①若者層ライフスタイルの多様化(人生複数化)、②SNSによる情報入手や関わり手段の高度化、③「関わり価値」が発生したことが指摘され、前出の指出氏は「若者は関係性を作ることに力ネを払う時代」と表現しています。

2019年に国交省が行った関係人口の量的把握のためのアンケート調査によれば、「三大都市圏の18歳以上居住者の約2割強(1080万人)が、日常生活圏・通勤圏等以外の特定の地域を訪問している」と推計されました。

関係人口がもたらす効果

総務省では2019年度から関係人口モデル事業(全国25団体)を開始しましたが、従来の移住促進施策とは異なり、「関係案内所」といわれる関わる機会の提供・空間があり・時間がある拠点づくりを重視した中間支援機能を整備しています。またオンラインを活用した緩やかなつながりも有効とされています。

これらの受け入れ団体の概要や地域おこし協力隊(2018年度全国で5300人余)の活動内容をみると、ローカルの自然資源や地場産業を刷新し地域課題の解決にも貢献するようなローカルベンチャーやソーシャルビジネスと言われる起業活動の活発さが目を引きまします。田舎の慣習や過去の政策に囚われず、軽やかな発想と新しいビジネススキルを用いて、農林漁業、食品加工業、ものづくり、伝統産業の継承、新たな観光スタイルなど、多様な事業が立ち上がっています。

こうした元気な事業主に魅力を感じて、お気に入りの地域へ都会から繰り返し訪れるファンとしての関係人口は、お客さんの位置に止まらず、事業主に力を貸して古民家リノベや交流プログラムの

運営、商品開発等に力を貸すこともありまします。

関係人口が従来の移住施策と決定的に異なるのは、総人口が減少する中で居住人口の奪い合いに陥る移住施策と一線を画して、都市と農山村を往復する一人の人材を幾つもの地域でシェアすることが可能な考え方に組み替えたことです。

地方社会の厳しい現状

ところで、都市と農山村の交流施策は過去に幾度も試みられてきましたが、長期的には人口の都市圏集中と地方の過疎化の傾向は止まっています。2000年代には「交流人口」という言葉が盛んに使われ、80年代には「都市農村交流」などの施策も盛んに展開されました。それらの意味や反省点を振り返っておくことも無駄ではないでしょう。

都市と農山村の自治体間が交流する場合、人口規模が大きく異なると小さな自治体の側には「もてなし疲れ」と言われる過重負担が起こりやすく、行政予算を原資とする交流事業の場合は、それらが民間事業や民間主体の実行委員会に移行できないと尻すばみに終わることがあります。

都市居住者は、農山村の美しい自然景観や新鮮な食材を喜ぶし、田舎の高齢者たちの人情に癒やされることも多いでしょう。でもそうした人情も自然の恵みも、実は地方の居住者たちが自然と対峙する中で培ってきたコミュニティの助け合いや自然管理の技術によって支えられています。

1970年代以降の過疎集落の運営状況を整理した小田切徳美氏による「過疎化の4段階」…人口の空洞化↓土地の空洞化↓集落の空洞化の最終段階として、2000年代以降に見られる誇りの空洞化へと進むと、過疎集落は不可逆的な消滅への道をたどると警鐘を鳴らしています。

関係人口の時代に求められる視点

都市との交流や関係人口を受け入れる前提として、過疎化に悩む地方の人達の誇り(住み続ける意味)を支え、農地や里山林の維持管理の労力の確保、農林漁業を支える新たな仕組みづくりが不可欠です。関係人口の動きが発展する中で、こうした地方の現実を理解し危機感を共有する人口が増え、個人的な関係性の中で支援の関係づくり・仕組みづくりが進むことを願っています。



坂折棚田から笠置山を望む



やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

令和2年7月22日に岐阜県立森林文化アカデミーにオープンした森林総合教育センター（愛称morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！今回は、教育機関との連携プログラムの一つとして実施している県立東濃特別支援学校への、森の活動支援についてです。

morinosは、「すべての人と森をつなぎ、森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを次世代に伝えていく」をコンセプトに、子どもから大人までが森林に親しみ、森林とのつながりを体験できるよう活動をしています。morinosに来てもらうだけでなく、県内各地に森とつながる場所をつくりたいと考えています。

はじめは令和元年度のことで、東濃特別支援学校の中学部の生徒が、森林体験としてアカデミーに来てくれました。生徒たちは森を存分に楽しみ、自分たちの学校にもこんな場所がほしいね、という話をしてくれました。じゃあ、作っちゃおう!!と、東濃特別支援学校の先生たちが学校に隣接する市有林の使用許可を取り、藪を切り開き、危険な木を切り倒し、看板をセットして、あっという間に森遊びができる場所、名付けて「TONOプレーパーク」をつくってしまいました。



▲TONOプレーパークの看板
生徒さんがつくりました



▲朝の読書 集中しています

しかもこの空間を使って、国語も数学も森の中で行っていました。生徒さんたちも森の中ではイキイキとしているため、学習意欲も格段に高いとのこと。朝の読書から始まり、木を切るときに1/2、1/4という概念を確認。輪切りの木や落ち葉で美術をやり、丸太を使って音楽もできちゃう。「雨の日以外はずっと森の中です。」とは、当時の担任の先生。



▲大人気のロープ遊び



集中して木を削ります▶



▲みんなの歌声が森に響く

今年度からは、中学部の3年生がさらに森の遊び場の整備をして、小学部の後輩たちが遊べる場所をつくる、という循環をつくっていきたいとのこと。そんな活動のお手伝いが出来たら、と今年も新たな3年生の活動を応援しに行ってきました。

楽しい遊び場をつくるためには、まず森を存分に楽しもう、ということで、TONOプレーパークの中で、木登り、ロープ遊び、などなど森の中でのワクワクを広げていきます。

毎回ながら、ロープは大人気！みんなロープの上をうまく乗りこなしていました。要所に東濃特別支援学校の先生やmorinosスタッフが一緒に遊びながら付き添います。森では開放的になって、いつも以上に元気に活動してくれているそうです。

生徒によっては削り馬で、木を削るのが楽しくて、楽しくて、たまらない人もいます。削り馬で木の枝を固定し、銚（ドローナイフ）で削ります。

森での活動の最後に、「最近では室内の活動ばかりなため、合唱が禁止されてるけど、みんな歌が大好き」とお聞きしました。そこで今回学校から「屋外での合唱OK」のお墨付きを受けて、ナバさんがウクレレを弾いて、東濃特別支援学校の校歌を歌いました。私たちが歌詞を間違えると、みんなから厳しいチェックが入りますが、それも楽しい時間となったのです。

morinosでは、これからも教育機関と連携して森での活動を行っていきます。興味のある方はご連絡ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YOU TUBE 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

林道法面における獣害対策について

揖斐農林事務所 本間 誠太郎

近年、ニホンジカの個体数の増加と分布区域の拡大に伴い、林業被害や農業被害が増加しています。

林道工事では、法面を植生によって被覆し、風化、侵食などを防止して法面の安定を図ることを目的に、植生工を実施していますが、早期緑化に適した牧草系植物はシカが好んで食べるため食害を受けやすく、また、シカの踏み荒らしによる基盤材の落下や植生マットの破損などの被害により、植生工の効果が発揮されない状況となっていることから、対策工の重要性が増しています。

シカの食害対策は、①法面へのシカの侵入を防止する方法と、②植生の衰退を防止する方法の2つが挙げられますが、①として周囲に防護柵を設置する方法は、法面積が比較的小さく、急こう配な工事現場では適していません。このため、近年では②として、金網等を法面から浮かせることで、シカの食害が根元まで及ばないようにし、植生を保つ方法が採用されています。牧草種は根元付近に成長点を持つてい

ることから、これにより枯死を防ぐことが可能です。

今回は、揖斐農林事務所管内で実施した②の対策工法の特徴などを紹介します。

いずれの工法も施工後1年経過後も植生の衰退は見られず、良好な状況を保っています。

1. メッシュブロック工法

剛性の高い亜鉛メッキ金網を立体構造とすることで法面から15cm浮かせる工法。

剛性が高いことから、法面の周囲(幅2m程度)に設置することで、侵入抑制効果も期待できる。ただし、今回の施工箇所において、法面が1割未満の緩勾配な法面では侵入が認められた。
・長大法面等でまとまった面積があり、急こう配な法面箇所において、法面の周囲に設置すれば、コスト縮減が図られ有効と思われる。

2. アーチブロック工法

ポリエチレン製のネットをアーチ状にして、法面から最大20cm浮かせる工法。

軽量で柔軟性もあるため、地山への馴染みが良く施工性に優れる。
・今回の施工箇所では、ネット内にシカの足跡が確認されるところにも、シカの侵入に伴うネットの変形が見られたことから、法面全面に施工する必要があると思われる。
・植生基材吹付工が必要な法面に適していると考える。



図1 メッシュブロック工法 (2,600円/㎡)

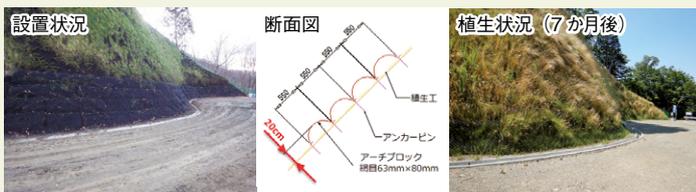


図2 アーチブロック工法 (2,200円/㎡)

3. 鹿止(しかと)金網工法

一般的なラス金網と同じ直径2mmの亜鉛めっき鉄線を、厚さが3cmになるように立体的に編んだ金網を設置する工法。

金網と法面との間隔が少ないため、侵入抑制効果はないが、最も安価。
・植生基材吹付工の施工箇所では金網が基盤材に食い込み、効果が薄れるため、植生マット工や植生シート工の施工箇所に適している。

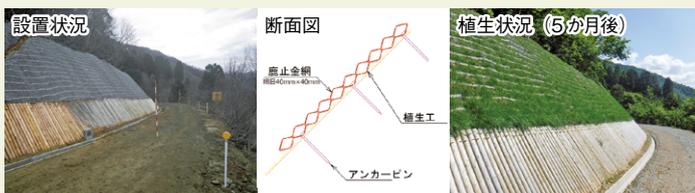


図3 鹿止金網工法 (1,700円/㎡)

詳しい内容を知りたい方は
TEL05851231111

揖斐農林事務所まで

表 比較する2つの小流域の概要（白川町内）

区分	間伐流域	無間伐流域
流域面積	約 5.3 ha	約 4.8 ha
樹種	ヒノキ (一部スギ, 広葉樹)	ヒノキ (一部スギ, 広葉樹)
林齢 (調査開始時)	52年生	54年生
施業履歴	2004年に間伐 2015年12月から 2016年3月に間	2003年に間伐 以降, 施業なし
調査区内の 立木本数 (本/ha)	間伐前 1,663 間伐後 1,164 (間伐区) ※	1,549 (無間伐区)

※間伐率：本数率、材積率ともに30%

間伐が森林の水源かん養機能に 及ぼす効果の検証（その2）

森林研究所 ● 久田 善純

森林研究所では、間伐の実施が森林の「水源かん養機能」にどのような効果を及ぼすのか検証する取り組みを、県内のヒノキ主体の小流域（表参照）を対象に行っています。以前にも当コーナー記事（森林のたより No.769, 2017年10月号）にて、ヒノキの樹冠部を通り抜けて地面にまで到達する雨量（林地正味雨量）の違いについて紹介しました。間伐

した流域と無間伐のままの流域のそれぞれ代表的な林相の箇所に設けた調査区（以下、「間伐区」、「無間伐区」という）では、間伐区の方が無間伐区よりも林地正味雨量が多く、間伐後4年が経過した現在でも、未だその傾向が続いています。

土壌水分率の違いについて

今回は、土壌水分の計測状況について紹介します。計測は、林内の雨量調査と同じ調査区内の林床に土壌水分センサーを設置（深さは地表面下5cm）し、土壌水分率（体積水分率）の推移を1時間ごとに記録しています（写真）。

降雨が断続的にある場合や冬季においては、両区の土壌水分率の推移に際立った違いはありません。しかし、夏季に無降雨・少雨の状態が長期間続くような場合は、無間伐区に特徴的な動きが見られます。図（上段）は、夏季の典型的な推移の例です。間伐区では数日間降雨がなくても、ある程度一定の水分率を維持し

続けています。一方、無間伐区では降雨が無い日が長く続く（6/9～6/20）と、降雨（6/21）があっても水分率がすぐには回復しない現象（6/22～6/30）があります。同様の現象は、計測を始めてから4年間の間に数回確認されています。

この現象については、両区の下層植生の違いが原因のひとつとして考えられます。写真のように、無間伐区では下層植生が少ないのに対し、間伐区ではササや低木が繁茂しています（間伐前からササ等が少量生育していましたが、間伐後、全面に繁茂しました）。間伐区では、下層植生が土壌水分の安定的な保持に寄与し、



写真 土壌水分率の計測の様子
(左：間伐区, 右：無間伐区)

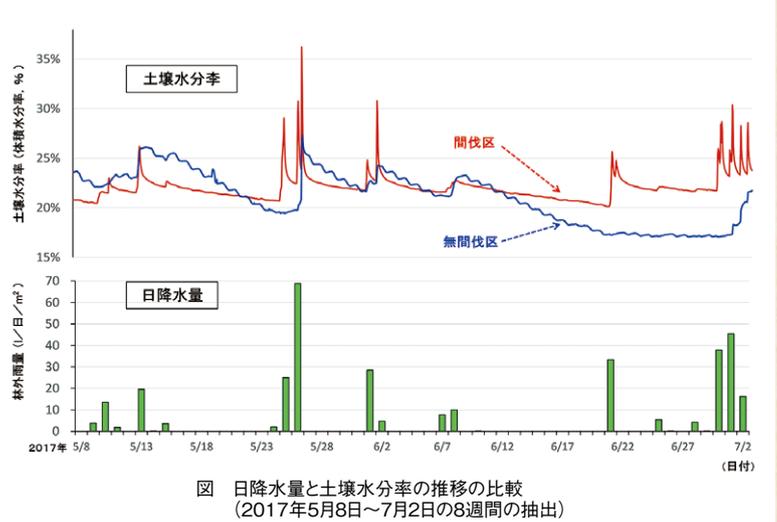


図 日降水量と土壌水分率の推移の比較
(2017年5月8日～7月2日の8週間の抽出)

無間伐区では、植生が少ないため林床の乾燥が進み、土壌表面に撥水性が生じるなどして、水分を浸透・保持しにくい状態になった可能性があります。

今後も調査を継続し、河川流出量の推移や林地正味雨量の差などと併せて検証することにより、森林土壌の保水性（雨水を浸透させ、貯留する効果）の違いを明らかにしたいと考えています。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで



惠南森林組合の生産性向上の取組支援!



■惠那農林事務所 河原 誠二

はじめに

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で原木価格が2千円/m程度下落し、林業経営環境は一層厳しさを増しています(令和2年10月時点)。

このような状況でも人工林の施業・管理は続けなければならず、森林所有者に少しでも多くの収益を還元できる施業実施が、今まで以上に求められます。

そこで収益性に影響を及ぼす生産性に着目し、その向上の取組支援を行っていますので、紹介します。

現状の把握

昨年度に行った伐採専門チーム調査結果から、県内の労働生産性の平均が4・35 m³/人日であったのに対し、惠那農林事務所管内(以下「管内」)の平均が3・66 m³/人日と、低い状況でした。

生産性が上がらない理由に管内の人たちからは、「急傾斜地である」「人工林の大半がヒノキで蓄積が少なく効率が悪い」「東濃松の産地であり優良材生産を行っているから」「真砂土地帯が広く作業道の開設が困難であり、効率のよい車両系作業システムの導入が難しい」という意見を聞きます。このような要因から生産性が上がらないということもありますが、管内でも生産性が県平均を超える事業体があります。今は生産性が低い事業体でもその向上に取り組めば、今より生産性を高めることができると考えました。

恵南森林組合への働きかけ

そこで恵南森林組合に管内の木材

生産事業体の実態を説明し、生産性を向上させる必要があること、県の補助事業(林業事業体木材生産支援事業)を活用して生産性向上に取り組んでみないかと提案しました。この提案に森林組合は理解を示し、管内で生産性が高い森の樹林産(株)の作本社長を指導者に、生産性向上に取り組みることになりました。

同じ地域で木材生産を行う事業体の、技術交流による生産性向上の取組みは成果があるのではないかと考え、恵南森林組合の生産性向上研修を支援することとしました。

生産性向上研修の構成

研修は①労働生産性の向上技術に加え、②売上単価アップに繋がる質の向上のための仕分・検知技術、③安全性向上のためのリスクアセスメント、という3つの要素を取り入れて行うこととしました。

なお、生産性向上技術の支援にあたり、従来森林組合ではC A部分が不十分であったPDCAサイクルの活用改善で、研修の取組みが着実に進むよう、林業普及の目標の一つに置いて私も支援に取り組みました。

森の樹林産の現場訪問

(R.9.18)

最初の研修は森の樹林産(株)の現場を訪問し、生産技術を学びました。

森林組合で林産事業を行う4チームのうち手始めに1チーム4名と、森林組合で現場統括役の小倉課長、森林組合の研修事業地を担当する施業プランナーで訪ねました。

この現場では集材方法、スイングヤードを投入するタイミング等の作

業手法のほか、タブレット端末を活用した森の樹林産(株)オリジナルの作業日報による工程管理の方法について学びました。

この作業日報の特徴は日々の作業の進捗を、全員がタブレット端末上で確認できることです。

例えば伐倒主が1日100本元伐りをし幹材積が1本あたり0・3 m³とすると、30 m³の伐採量が即座に日報に登録できます。集材担当者は、現場に100本30 m³の集材すべき材があることが、即座に把握できるようになります。

作業が即座に見える化・共有されるため、次へつなぐ作業を意識できるようになります。効率的に作業が行えるようにつながること学びました。

また「技術力の高い人」が退職等で欠けたら生産性が落ちたということが無いよう、事業体として若手の技術研鑽に努め、技術力の平準化・一定水準の確保・維持を図ることの重要性についても学びました。



▲森の樹林産(株)の現場訪問

恵南森林組合の生産現場での指導 (R2.10.15)

次の研修は恵那市上矢作町地内の森林組合の間伐事業地に講師を招き、生産性向上と仕分・検知について指導を受けました。

研修に先立ち森林組合へ日々の作業量の現状が把握できるよう作業日報の作成・提供を依頼し、事前に分析をしました。

その結果、作業の効率化を図るため1日の伐採量と集材量が整合するよう作業が進められているのが確認できましたが、途中1日の集材量が減少していることがグラフから分かり、集材工程に課題があることが把握できました(図1)。その原因は地形要因であることが組合の説明でわかったうえで、研修当日の指導を受けることができました。

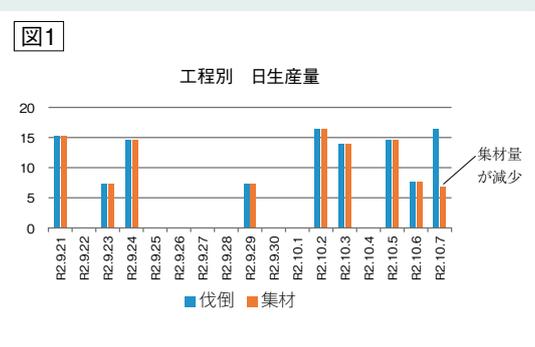
そのため現地では適正な人員配置や集材方法に絞り、効率的に具体的な指導を受けることができました。

また研修を受講したチームに森の樹林産(株)の作業日報システムを提供していただけることになり、工程管理が行われることになりました。

続いて、質の向上のための仕分・検知技術研修を、同町内の中間土場へ移動し行いました。

中間土場直送で販売手数料の圧縮、仕分け検知による手数料の収入増が望めることなど、出荷先を見据えた仕分・検知を行うことの有利性等を学びました。

今後は山土場や中間土場からの直送の割合を増やし、売上増を図ることが参加者の中で確認されました。



今後の取組

これまでに2回の研修を終えましたが、リスクアセスメント研修が残り、今後実施予定です。

そして森の樹林産(株)から提供を受ける作業日報を活用し、日々の工程管理を行う取組を研修に参加したチームから始め、その成果を恵南森林組合全体に広げる取組が行えたらと考えています。研修参加者の間では、生産性5㎡/人日以上を目指そうと話しあわれています。

これらの目標が実現できるよう、継続して支援を行っていきたくと考えています。

(注) PDCAサイクル Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことにより、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0573-26-1111(内線305)
恵那農林事務所まで

スマート林業通信 ⑥

携帯圏外の安全装置体験会を開催

9月29日と30日に、携帯電話の通信圏外で事故発生を知らせる林業安全装置「キッツキハンマー(ブライムシステム社製)」の体験会を開催しました。

キッツキハンマーとは労働者に倒木による転倒や滑落等の事故が発生した場合にヘルメットに取り付けたIoT機器が自動で衝撃を感知し、携帯電話以外の通信技術(LPW A通信)を用いて他の労働者へSOSを伝達するシステムです。他の労働者のヘルメットを光と音と振動で「コンコンとキツキが叩くように」知らせます。見通しが良ければ1200m、林内でも800mの通信が可能だそうで、災害を早期に見できれば応急手当てや早期救助ができ、重大災害の発生を防止できます。

体験した参加者からは「よくできた商品で購入を検討したい」、「商品を実際の作業で体験できれば口コミで普及するだろう」と高評価が多かった反面、「ブライム製のヘルメットはバンドで装着できず、他の固定方法を考えてほしい」、また主催者の予想に反して参加者が少なく、その理由として「安全に対する経営者や管理者の危機意識が低いのではな



体験会の様子



キッツキハンマー(子機)

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-65-2000
森林文化アカデミー
スマート林業推進係まで

森林技術・支援センター の取組について

岐阜県内には岐阜・飛騨・東濃の各森林管理署が所在していますが、そのほかに中部森林管理局森林整備部の組織として、下呂市内に森林技術・支援センターがあり、その取組について紹介します。

●組織の概要

中部森林管理局では、令和二年度事業の取組のポイントとして、◇公益的機能の一層の発揮、◇林業の成長産業化への貢献、◇「国民の森林」としての管理経営、の三点を重要かつ新たな試みに掲げ業務を進めており、当センターは、①技術開発、②人材育成、③民有林への技術支援・普及を主な業務として、中部森林管理局管内の国有林野を活用した試験地等の調査・整備、研究機関と連携した取組、研修及び各種検討会の企画運営等を七名の職員で実施しています。

主な活動フィールドは下呂市や七宗町をはじめ、岐阜県内の国有林を主体に、長野県内の国有林にも試験地を設定しており、試験地内の樹木の成長調査等のもとより、調査データの解析に

よる各種技術の実証や普及等に取り組んでいます。



▲七宗大径材生産展示林 (ICT研修)

●業務の内容

① 技術開発について

中部局技術開発委員会の実施計画に基づき、現在、当センターでは局署と連携しながら、四つの技術開発課題に取り組んでいます。

その中でも、昨年度から取り組んでいる「ヒノキコンテナ苗と下刈り省略の組み合わせによる初期保育技術の開発等」については、共同研究者として岐阜県森林研究所等と連携を図り、国有林のフィールド提供や合同

調査など、効果的な試験研究を進めています。

また、技術開発課題の外に自主課題として、「ヒノキ本数密度実験林」、「間伐推進指標林」、「針広混交植栽試験地」など、約二十箇所の試験地等において、各種調査によるデータの収集を行っています。そのデータの解析結果に基づいて、実用段階に達した技術の実証・企画等の成果については、発表会等を通じて情報発信に努めています。

② 人材育成について

森林総合監理士(フォレストラー)の育成を行うため、国有林のフィールドや技術力の提供を行うとともに、必要な知識・技術等を習得させるために、実践研修及びICT研修を実施しています。

実践研修は、市町村への指導・助言を担うべき森林総合監理士の技術水準の維持向上を図るために実施しており、木材生産及び再造林のコスト縮減を課題とした現地検討会を通じて、実践的な知識や技術の習得を目指しています。

また、ICT研修(林業成長産業化構想技術者育成研修)は、効果的な生産システムを念頭においた、総合的な森林づくり構想の作成に資する人材育成を目的として、路網整備に向けた設計・施工等の高度な技術の習得を目指しています。

③ 民有林への技術支援・普及について

岐阜県立森林文化アカデミーなど、学生の現地実習や試験地等の視察、試験研究のためのフィールドやデータ等資料の提供を行うと同時に、国有林の施業の紹介や技術の普及に努めています。

また、ニホンジカの侵入・食害防止対策について、民・国の情報共有や意見交換を行い、効果的な対策を講じるために現地検討会等を開催しています。



▲森林総合監理士の育成 (実践研修)

●おわりに

「国有林の技術開発データを研究開発の参考にした」、「国有林の施業の指標林を見学したい」……といったご要望に込め、今後も、民有林への技術普及等を図るため、情報の発信・提供に努めて参りたいと考えています。

(森林技術・支援センター)

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
1月8日(金)	造林作業の 指揮者等 安全衛生教育	●講習時間: 8:50~16:50 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 11,200円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月14日(木)~ 1月15日(金)	木材加工用機械 作業主任者 技能講習	●講習時間: 14日~15日 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 17,600円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月20日(水)~ 1月21日(木)	リスクアセスメント 担当者安全衛生教育	●講習時間: 20日(林業) 9:20~16:50 21日(製造業) 9:20~16:50 ●申込: 開催日の2週間前まで ●受講料: 12,000円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月3日(水)~ 2月5日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育	●講習時間 3日 学科 8:30~17:10 4日 学・実 8:50~12:00 5日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 22,770円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	3日(学科)・4日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 5日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月16日(火)~ 2月19日(金)	フォークリフト 運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間 1日目 学科 8:20~16:30 学科試験 16:30~17:30 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 32,450円(本代含む)(振込み) ●定員: 20名(定員になり次第締め切ります。)	学科 伊自良中央公民館(山県市大門 912-1) 実技 ぎふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月25日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間 学科 9:20~15:40 実技 15:50~16:50 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム 先日、長女が生まれて初めての誕生日を迎えました。生まれてきてくれた日から1年が経つのかと思うと、月日の経過、子どもの成長の早さを感じます。

初めて寝返りをしたとき、ハイハイをしたとき、一人で歩けるようになったとき、1つ1つの成長がとてうれしく、また少しさみしくも感じました。

今では、仕事から帰宅するとおぼつかない足取りで、笑顔で出迎えてくれます。まだ言葉は話せませんが、お帰りと言ってくれているようで、今ではそれが毎日の楽しみになっています。

そんな子どもの成長した姿を見ながら、この1年間、父親として充分なことをしてあげることができていたのだろうか、自問をすることがあります。

「子どもが1歳なら父親としても1歳」そう言い聞かせながら、これからも愛情たっぷり子どもの成長を見守っていこうと思います。

「森林のたより」編集委員 藤井 伸司

COLUMN

イベント情報

1月1日発行

連載

- 山の歳時記(185)
- 山のおじゃまむし(354)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(96)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(94)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林文化の研究と実践

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他



木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考	
第1743回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	11,200	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格	
		4 m	16~18cm	10,000	—		
			20~22cm	12,200	—		
			24~28cm	11,400	19,000		
			30cm以上	9,700	19,000		
	6 m	16~18cm	—	—			
	11月10日	ひのき	3 m	16~18cm	15,100		—
			20cm以上	12,300	—		
			4 m	16~22cm	15,500		—
		4 m	24~28cm	12,500	—		
30cm以上			11,500	65,000			
6 m			16~18cm	—	—		
第1319回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	11,000	—		
		4 m	24~28cm	11,000	—		
			30cm以上	10,000	13,000		
	ひのき	3 m	16~18cm	15,000	—		
		4 m	20~22cm	14,000	—		
			24~28cm	14,000	—		
		30cm以上	15,000	—			
		6 m	16~20cm	20,000	—		
		10月28日	まつ	4 m	24~28cm	8,000	—
	30cm以上			9,000	—		
	ひめこ		4 m	24~28cm	12,000	—	
			30cm以上	12,000	17,000		
	第1652回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	11,200	—	
4 m			24~28cm	10,800	18,000		
			30cm以上元	12,500	100,000		
ひのき		3 m	16~22cm	15,500	29,000		
			24~28cm	12,500	26,000		
			30cm以上元	15,500	75,000		
		4 m	13cm以下	9,000	—		
	24~28cm		12,800	40,000			
	30cm以上元		17,000	175,000			
11月5日	まつ	4 m	22~28cm梁	5,000	—		
		30cm以上元	6,000	—			

木材市場

記念市(第8回ぎふ優良材展)を東濃共販所で開催。県内外の良材多数入荷により盛況な記念市となった。

【商況】

応札は全体的に活発。今秋伐採の新木についても引き続き期待感大。スギ4m元木良材には応札旺盛。スギ3m並材は保合。4m並材は需要が高まっており強保合。ヒノキ4m元木良材には応札旺盛。ヒノキ3m、4m柱、土台取りに復調の兆しあり。価格は上向き気配があり強保合。合板向けヒノキは保合。スギは需要大。価格も含めて強含み。各大型工場より一部原木受入制限情報があり、共販所担当者まで連絡下さい。製紙向けパルプ材、各工場受入は順調。発電向け未利用材は降し場に指定あり。(岐阜)

スギ3・4m並材は保合。ヒノキは地元の買い方も多く全般に買い気が見られ良材は売りやすく柱材は強保合となった。特にヒノキ元木2m応札好調。ヒメコ並材は保合。スギ大径木欠点材については応札低調。広葉樹は全般に人気が集まり応札旺盛で完売。主な高値は、オニクルミ元木3.0m×32cm@4万6千円 トチ元木2.2m×40cm@4万円(飛騨)

全般的にヒノキ・スギとも並材(16cm~22cm)は、応札旺盛にて強保合。ヒノキ元木、良材2m、3m、4m(高齢材及び枝打材など(特殊材))には応札旺盛にて強保合。スギ元木良材には応札旺盛強保合。ヒノキ並材は3m・4m(16~22cm)は、需要があり価格は上向き気配にて強保合。スギ並材は3m・4m(16~28cm)状況が徐々に緩和し強保合。(東濃)

製品卸売標準価格 (10月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	55,000	(1,819)	→
	間柱	3000	105	30	1等	55,000	(520)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,920)	→
		3000	120	120	国産5層	59,000	(2,520)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (10月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	306	米榎	ヘム(アラスカ産)	292
	コースト(目荒)	317	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

あらかわ こうほう 現し工法

木材用語一口メモ

構造材を見せるように設計された木造建築の手法。木組みの美しさや、木材の意匠的な美しさをアピールすることができる。最近では節あり材、古材など様々な木材が現しで使用されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典

